

(半期・2単位)

科目名	自然科学概論Ⅱ	科目分類	□第1グループ ■第2グループ	
			全学科	■選択
英文表記	Natural Sciences II	開講年次	■3年後期	
ふりがな	むらなか たかし	修得単位	2 単位	
担当者名	村中 孝司			
授業の到達目標及びテーマ	宇宙の成り立ちと太陽系・地球、日本列島の特色について概観し、自然科学の本質と学問的な特色、科学的方法と論理的思考について修得する。			
準備学習	地球外生命体は存在するか、タイムマシンは実在可能か、地球温暖化を食い止めるにはどうしたらいいか。自然科学にまつわる様々な問題点科学的な視点から考えてほしい。			
【授業概要】宇宙が誕生して137億年、現代人類は次々の科学的な発見や発明を繰り返して、自然現象を明らかにしてきた。未知の自然現象に対して、科学者は現象に関する情報や問題点を発見、蓄積、整理し、分析することを通して仮説の検証を試みてきた。「自然科学」はいったいどのようにして生み出され、どのような道筋で発達してきたのか。講義では、(1)宇宙の誕生と進化、地球について触れ、(2)日本の自然の特色と美しい自然景観、豊かさなどの特色を紹介する。また、(3)科学の誕生と発展、科学の要件と科学者の資質、科学的な研究の方法や考え方について理解することを目的とする。				
授業計画				
第1回	ガイダンス	自然科学とは何か		
第2回	宇宙の進化	宇宙の誕生と物質・光・重力、恒星		
第3回	時間と空間	時空を自由に移動できるか、地球外生命体は存在するか		
第4回	太陽系と地球	惑星、地球、火山と地震、自然災害から身を守るために		
第5回	日本の森林	日本の森林の豊かさ、自然景観と観光名所、新緑・紅葉		
第6回	日本の里山	里山からの恵み、生態系サービス		
第7回	日本の川と文化	山から海へ、回廊としての川、川からの恵みと農業の発達		
第8回	自然科学の歴史	自然学から近代自然科学へ、科学の大革命と近代自然科学の誕生		
第9回	科学の要件	「科学的」とは何か? 「科学」と「学問」の領域、疑似科学とは		
第10回	科学的方法	論理、演繹と帰納、観察と実験、科学的仮説と発見の論理		
第11回	情報の分類	元素の周期表、生物の二名法、自然分類と人為分類		
第12回	情報の収集と分析	標本抽出法、比較、原因と結果		
第13回	情報の信頼性、文献と資料	文献の種類、情報の種類、研究成果の公表手続き		
第14回	自然観	自然に対する人間の考え、西洋と東洋の自然観		
第15回	農耕の起源と伝播	自然と人間生活、根栽農耕文化		
第16回	試験			
テキスト	配付資料			
参考文献	講義中に紹介する			
評価の方法	試験、レポート、自然科学・環境問題に関する本の要約(自由課題)			
学生へのメッセージ	「宇宙」や「自然」に対して、人間は宇宙、自然、生命をどのように認識していたのか。時空を自由に移動できるのだろうか。科学的に論理的に考えます。			

(半期・2単位)

科目名	マーケティング II	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済	□必修 ■選択
			マネジ	□必修 ■選択
英文表記	Marketing II	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	すずき ひであき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	鈴木 秀 顕	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 サービスの意味と企業活動への影響を理解すること 〔テーマ〕 サービスの特殊性に関する考察			
準備学習	特に予備知識は要求しない。身近に存在するサービスを良く観察してみることが望ましい。			
【授業概要】 従来のマーケティングに関する研究は、物財を対象としていた。今日では、サービスの取引が多数を占める。それゆえ、サービスの特性を踏まえたサービスのマーケティング研究が必要となってきた。本講義では、新しいマーケティング理論であるサービス・マーケティングの基礎を解説していく。				
授業計画				
第1回 経済のサービス化				
第2回 サービスの意味と産業分類				
第3回 奉仕系サービスと製造業、賃貸系サービスと流通業				
第4回 産業分類と現実の財の構成				
第5回 サービスの源泉別分類				
第6回 人的サービスの性格Ⅰ—生産過程と消費過程—				
第7回 人的サービスの性格Ⅱ—生産者と消費者の関係—				
第8回 人的サービスの性格Ⅲ—流通過程—				
第9回 人的サービスの性格Ⅲ—品質の不安定性—				
第10回 物的サービスの性格Ⅰ				
第11回 物的サービスの性格Ⅱ				
第12回 現実のサービス業についてⅠ				
第13回 現実のサービス業についてⅡ				
第14回 現実のサービス業についてⅢ				
第15回 まとめ				
第16回 期末試験				
テキスト	使用しない			
参考文献	講義の中で紹介する			
評価の方法	期末試験を中心に、授業中に課す課題を加味して評価する。			
学生への メッセージ	本講義を通じてサービスの意味やサービス業の性格を理解できれば、たいへん望ましいことである。			

(半期・2単位)

科目名	環境論 I	科目分類	□第1グループ ■第2グループ	
			経済	□必修 ■選択
英文表記	Environmental Science I	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	りきいし くにお	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	力石 國男	修得単位	2 単位	
授業の到達目標及びテーマ	[到達目標] 地球環境問題の発生原因や実態について理解を深め、その対策を考えられるようになることが目標です。 [テーマ] 地球環境問題。			
準備学習	新聞・テレビで報道される地球環境問題に関心を持ち、自分の知識を整理しておいてください。			
【授業概要】私たちの生活に影響を与える代表的な地球環境問題について、その発生原因や実態について広く深く学びます。				
授業計画				
第1回 ガイダンス				
第2回 エネルギー問題(1) —原子力発電—				
第3回 エネルギー問題(2) —資源の枯渇—				
第4回 地球温暖化(1)				
第5回 地球温暖化(2)				
第6回 オゾン層の破壊(1)				
第7回 オゾン層の破壊(2)				
第8回 酸性雨(1)				
第9回 酸性雨(2)				
第10回 エルニーニョ現象(1)				
第11回 エルニーニョ現象(2)				
第12回 雪氷圏の衰退(1)				
第13回 雪氷圏の衰退(2)				
第14回 砂漠化(1)				
第15回 砂漠化(2)				
第16回 試験				
テキスト	資料を配付します。パワーポイントも使います。			
参考文献	必要に応じて授業中に指示します。			
評価の方法	試験およびミニテスト(随時実施)。出席状況も考慮します。			
学生へのメッセージ	地球環境問題は世界の政治・経済に重くのしかかっています。皆さんの将来の生活にも影響しますので、しっかり学んでください。			

科目名	日本経済の動き としくみ(Ⅱ)	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済学科	□必修 ■選択
			マネジメント学科	□必修 □選択
英文表記	Japanese Economy(Ⅱ)	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	きむ ちゃん なむ	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	金 昌 男	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕戦後の高度成長期以後の日本経済の発展メカニズムと長期停滞の原因を理解する 〔テーマ〕改革と復興、成長と自立、安定成長、バブルと長期停滞			
準備学習	授業に入る前にテキストや関連参考文献に目を通しておくこと			
【授業概要】				
戦後日本経済の成長メカニズムを明らかにし、1980年代半ば以後のバブルの生成原因とそれに次ぐ長期停滞の問題を究明することによって、今日の日本経済の問題点を理解していく				
授業計画				
第1回 1930-45年間の日本経済の姿				
第2回 改革と復興：ハイパーイン플레이、食糧難、失業の問題				
第3回 農地改革、財閥解体、労働解放				
第4回 特需景気と日米経済協力				
第5回 高度成長と国民の暮らし				
第6回 農業・重化学工業化・技術革新				
第7回 企業集団と中小企業				
第8回 日本的労使慣行、為替政策と貿易自由化				
第9回 大衆消費社会の到来と大型投資、企業主義原理の普及				
第10回 高度成長と地域開発政策				
第11回 対外経済関係				
第12回 1980年代の経済状況、ドルショック				
第13回 貿易黒字の累積とプラザ合意				
第14回 バブルの発生とデフレーション				
第15回 構造改革の行方				
第16回 定期試験				
テキスト	森武磨・浅井良夫・西成田豊他共著、『現代日本経済史』有斐閣、2008年。			
参考文献	日本国勢図書会、『数字でみる日本の100年』矢野恒太記念会、2013年			
評価の方法	出席20%+レポート20%+定期試験60%=100%			
学生への メッセージ	テキストと参考文献などを基に予習と復習を確りすること			

科目名	欧米の産業と貿易の歴史(Ⅱ)	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済学科	□必修 ■選択
			マネジメント学科	□必修 □選択
英文表記	Economic History of Western Countries(Ⅱ)	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	きむ ちゃん なむ	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	金 昌 男	修得単位	2単位	
授業の到達目標及びテーマ	[到達目標] 第2次世界大戦以後のパックスアメリカナによる世界経済秩序を理解し、かつこの秩序の未来像を予測する能力を身に付けることを目標にしている。 [テーマ] パックス・アメリカナ、GATT, WTO, EU, FTA, TPP			
準備学習	授業の前にテキストや参考資料などを読んでおくことが望ましい。			
【授業概要】 独占資本主義時代から第2次世界大戦後のGATT体制への転換をもたらした諸要因、GATT出帆による自由貿易体制とパックス・アメリカナの威容、WTO体制への転換とEUの誕生、FTAを中心にする地域経済統合の進展要因を、世界各国の経済的側面に照らして解明していく。				
授業計画				
第1回 本講座の解説ならびにテキストや参考資料に関する紹介				
第2回 世界経済秩序の変遷Ⅰ(重商主義の保護貿易体制)				
第3回 世界経済秩序の変遷Ⅱ(パックス・ブリタニカ時代の自由貿易体制)				
第4回 世界経済秩序の変遷Ⅲ(独占資本主義時代の保護貿易体制)				
第5回 世界経済秩序の変遷Ⅳ(パックス・アメリカナ時代の自由貿易体制)				
第6回 世界経済秩序の変遷Ⅴ(グローバル化時代での経済統合と自由貿易)				
第7回 戦後アメリカ経済とウルグアイ・ラウンドの背景				
第8回 スタグフレーションとアメリカ産業の衰退				
第9回 経済再生とレーガノミックス				
第10回 アメリカ型大量生産システムと日本型生産システム				
第11回 ウルグアイラウンドの交渉内容(GATTとWTOの差異)				
第12回 1990年代アメリカ経済の構造問題				
第13回 EUの誕生と地域経済統合の進展				
第14回 NAFTAとAFTAの出帆				
第15回 TPPの戦略とアジア地域における政治・経済的意味				
第16回 定期試験				
テキスト	担当教員の講義ノートを中心にし、資料のコピーを配布する			
参考文献	久保広正・田中友義、『現代ヨーロッパ経済論』ミネルヴァ書房、2011年 中田素香他著、『現代ヨーロッパ経済』有斐閣、2011年			
評価の方法	出席20%+レポート20%+定期試験60%=100%			
学生へのメッセージ	出席は全体の75%以上、レポートは日本経済の発展に関するテーマを選んでワードでA4用紙4枚程度を定期試験前週の授業時間に提出すること。			

科目名	銀行の業務	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済	□必修 ■選択
英文表記	Management of Banks	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	あきたけんしんようくみあい やまもとしゅん	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	秋田県信用組合 山本 俊	修得単位	2 単位	
授業の到達目標及びテーマ	金融機関の主要な役割は資金供給と同時に情報生産活動にある。この情報生産の側面を学習し、金融機関の役割を貸す側の視点から理解できるようになること。			
準備学習	① 預金を扱う金融機関の業務の概要を事前に調べておくこと。 ② 授業の復習は必ずその日に行うこと。			
【授業概要】現代ファイナンス論Ⅰの金融機関の機能（第13回、14回、第15回）の部分に焦点をあて、特に、銀行の情報生産活動に注目する。中小企業金融や地域金融にも言及する。また、秋田信用組合から講師をお招きし、実務家の視点から、講義して頂く予定である。貴重な機会であるので、多くの受講生を期待する。				
授業計画				
第1回 テーマ：金融機関の種類と機能、講義資料配布 ガイダンス、金融機関の種類と役割、金融機関の業務と現状				
第2回 テーマ：日本の銀行の状況と特徴、講義資料配布 銀行の定義と推移、銀行の貸借対照表と損益計算書、メインバンク制度				
第3回 テーマ：銀行預金とデリバリーチャンネル、講義資料配布 金融機関利用に関する意識調査(郵政総合研究所)、銀行店舗網とATMの変化と規制、預金需要				
第4回、第5回テーマ：銀行の産業組織、講義資料配布 第4回 情報生産活動における規模の経済の意味とU字型の平均費用曲線、範囲の経済の意味と費用補完性 第5回 情報の非対称性と信用割当				
第6回 テーマ：銀行の市場規律、講義資料配布 取りつけ騒ぎとその防止、預金保険制度とモラルハザード、自己資本比率規制、貸し渋り				
第7回 テーマ：資金供給と銀行システム、講義資料配布 バランスシート制約、貨幣乗数、信用創造、コール市場と準備金、ハイパワードマネー、公開市場操作				
第8回、第9回、第10回 テーマ：中小企業金融、講義資料配布 第8回 中小企業の定義と現状、中小企業金融の特徴 第9回 中小企業への銀行融資、ディスカレッジド・ボロワーズ 第10回 公的資金と信用保証制度				
第11回、第12回、第13回 テーマ：信用組合講師による講義 第11回 第1回目講義：(参考)一昨年度の講義テーマは「信用組合とは」 第12回 第2回目講義：(参考)一昨年度の講義テーマは「信用組合の実際の仕事」 第13回 第3回目講義：(参考)一昨年度の講義テーマは「信用組合の地域社会における役割」				
第14回、第15回 テーマ：地域金融、講義資料配布 第13回 資金偏在、リレーションシップバンキングとアクションプログラム、営業地盤と収益率 第14回 地域銀行の効率性と営業地盤、地域銀行の姿勢、地域経済の振興				
第15回 テーマ：金融システムの安定性、講義資料配布 公的資金の注入、預金保険、金融再生プログラムとメガバンクの不良債権処理、安定化対策				
第16回 期末試験 試験範囲：第1回から第15回まで。				
テキスト	なし。配布する講義資料。			
参考文献	① 筒井義郎編『金融分析の最先端』東洋経済新報社、2000年 ② 藪下史郎『中小企業金融入門』(第2版)東洋経済新報社、2006年			
評価の方法	期末試験70%、課題(確認問題)20%、出席状況10%の合計を基に評価する。 優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 課題は受講者が理解度を自ら確認するという意味でも重要である。 試験については努力が報われるような出題を心がける。			
学生へのメッセージ	いかなる分野で活躍するにも、金融機関との関係は長く続く。よって、金融機関の重要な機能である情報生産の側面を理解しておくことは有用である。			

科目名	経済学の歴史Ⅱ	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済	□必修 ■選択
			マネジ	□必修 ■選択
英文表記	The History of Economic Thought Ⅱ	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	しまだ こうや	修得単位	2単位	
担当者名	嶋田 耕也			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕ケインズを中心に現代経済学を理解しよう。 〔テーマ〕ケインズ理論の革新点。			
準備学習	ケインズ、シュンペーター、レオンチェフそして新古典派を理解するためには、私たちの周りの現実に関心を持たなければなりません。			
【授業概要】ケインズによって現代の経済政策、および管理通貨制度の本質を、シュンペーターによって資本主義発展のダイナミズムを、レオンチェフによって産業間の結びつきを理解しよう。				
授業計画				
第1回 ケインズとその時代				
第2回 ケインズ理論 1				
第3回 ケインズ理論 2				
第4回 ケインズ理論 3				
第5回 ケインズ理論 4				
第6回 シュンペーターの経済理論 1				
第7回 シュンペーターの経済理論 2				
第8回 ケネー、マルクス、そしてレオンチェフ				
第9回 産業連関論の概要				
第10回 行列式 1				
第11回 行列式 2				
第12回 産業連関論 1				
第13回 産業連関論 2				
第14回 産業連関論 3				
第15回 経済学の歴史のまとめ				
第16回 テスト				
テキスト	使用せず。プリント配布、および板書			
参考文献	授業時に指示します。			
評価の方法	出席回数とテストの点数			
学生への メッセージ	20、21世紀は親ケインズか反ケインズかの時代です。			

(半期・2単位)

科目名	生活と社会福祉	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			選 択	
英文表記	Social Welfare	開講年次	2 年	
ふりがな	ふじもつよし	開講期間	前 期	
担当者名	藤 本 剛	修得単位	2 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 最近の社会福祉政策の流れを理解し、今後の福祉のあり方について理解を深める。 〔テーマ〕 児童家庭福祉、障がい者福祉、高齢者福祉			
準備学習	新聞の社会福祉関連記事を読んでおく。前週の講義内容を復習しておく。			
【授業概要】 少子高齢化が進展し、社会が大きく変化していく中で、社会福祉のありようも大きな変化に見舞われています。この授業では、社会福祉の基礎的な知識や考え方を学びながら、時代と共に変化する社会福祉の現状、課題、政策などについて、私たちの生活との関わりの中で捉え、共に考えていきたいと思えます。分野としては主に児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉を対象として取り上げます。また福祉サービスを支える経済的基盤、人的資源についても触れていく予定です。				
授業計画				
第1回 社会福祉の考え方と社会福祉援助技術				
第2回 社会福祉を取り巻く環境とこれまでのあゆみ				
第3回 社会福祉の仕組み				
第4回 社会福祉サービスの利用の仕組み				
第5回 社会福祉の機関と施設・担い手				
第6回 低所得者福祉①				
第7回 低所得者福祉②				
第8回 児童家庭福祉①				
第9回 児童家庭福祉②				
第10回 障がい者福祉①				
第11回 障がい者福祉②				
第12回 障がい者福祉③				
第13回 高齢者福祉①				
第14回 高齢者福祉②				
第15回 地域福祉				
第16回 テスト				
テキスト	プリントを使用します。			
参考文献	石田慎二/山縣文治編著『社会福祉・第2版』ミネルヴァ書房			
評価の方法	試験、出席、レポートの総合評価			
学生への メッセージ	半期で行うには対象範囲が広い科目です。予習・復習を是非行ってください。			

科目名	地域の経済政策	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済	□必修 ■選択
英文表記	Regional Policy of Economy	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	野口 秀行	修得単位	2 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 地域経済の現状と課題の整理と課題の解決策 〔テーマ〕 地域経済の優勝劣敗			
準備学習	・常に復習しておくこと			
【授業概要】なぜ過疎が進むのか？なぜ都市と地方との間に経済格差が生まれるのか？経済のグローバル化がなぜ地域経済を疲弊させているのか？これらの問題を解決していくためには、地域の経済政策は、どうあるべきなのかについて学ぶ。				
授業計画				
第1回	地域経済の活性化方策～日本経済の行方と地方経済			
第2回	産業構造転換と地域経済～浜松に見る地域の産業政策			
第3回	地域経済と産業インフラ整備（1）～東北地方の鉄道・港湾・空港・高速道路			
第4回	地域経済と産業インフラ整備（2）～東北地方の知的インフラ・大学			
第5回	平成の市町村合併と地域経済の変容～道州制・地方分権・地方税制			
第6回	産官学連携とインキュベーション～地域経済の再生に大学の果たした役割			
第7回	マイケル・ポーターの産業クラスター論			
第8回	90年代米国におけるクラスター形成			
第9回	わが国における地域クラスター形成～地方経済を支える科学技術の系譜			
第10回	東日本大地震と東北の先端産業			
第11回	創造化時代・知識経済への転換（1）			
第12回	創造化時代・知識経済への転換（2）			
第13回	秋田の産業政策～環日本海経済連携・中国東北部・ロシアシベリア地区との経済連携			
第14回	秋田のリーディング企業～世界的な高シェア企業・世界最先端の技術			
第15回	創造化時代・知識経済への転換と秋田～秋田は生き残れるのか			
第16回	期末試験			
テキスト	プリント配布			
参考文献	追って連絡します			
評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。			
学生への メッセージ	経済を面白く楽しく学びます			

科目名	新聞で読む経済事情	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済	□必修 ■選択
英文表記	Economic Conditions	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	まえだ なおや	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	前田 直哉	修得単位	2単位	
授業の到達目標及びテーマ	[到達目標] グループ面接で意見を述べよう！議論をリードしよう！ [テーマ] 新聞を読んで時事問題に精通する			
準備学習	新聞を買って線を引きながら読むことが望ましい。			
<p>【授業概要】新聞の経済記事を難なく読めるようになることが経済リテラシーを身につけた証拠だとよく言われます。また、就職活動対策として、新聞を読んでおくべきたということもよく指摘されます。しかし実際には皆さんどうでしょうか。新聞を読んでいるのでしょうか。読んでいても政治・経済・法律の欄を敬遠してはいないのでしょうか。平和な時代には時事問題に無関心であっても、社会人として勤まることもあったかもしれませんが、不安定な時代に時事問題を知ることは、現実の社会の動きを知る絶好のチャンスでもあります。就職事情が困難と言われる時勢であります。新聞を読んで社会人として必要な教養を身につけましょう！</p>				
授業計画				
第1回 イン트로ダクションー社会的事象は連なりあり！				
第2回 日本のメディアリテラシーの検証				
第3回 新聞記事の読み方 ①				
第4回 新聞記事の読み方 ②				
第5回 担当教員による新聞記事の解説 ①				
第6回 担当教員による新聞記事の解説 ②				
第7回 担当教員による新聞記事の解説 ③				
第8回 担当教員による新聞記事の解説 ④				
第9回 学生による新聞記事の解説 ①				
第10回 学生による新聞記事の解説 ②				
第11回 学生による新聞記事の解説 ③				
第12回 学生による新聞記事の解説 ④				
第13回 学生による新聞記事の解説 ⑤				
第14回 学生による新聞記事の解説 ⑥				
第15回 学生による新聞記事の解説 ⑦				
第16回 期末試験				
テキスト	講義資料を配布する			
参考文献	講義中に紹介する			
評価の方法	学生による新聞記事の解説＋定期試験＋授業態度(発言カード:3分の2以上の出席が単位認定の条件)			
学生へのメッセージ	この講義の主な目的は新聞を読んで就職活動に活用することです。			

科目名	経営学Ⅱ	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済学部	マネジメント ■必修 経済学科 ■選択
			法学部	□必修 ■選択
英文表記	Business AdministrationⅡ	開講年次	経済■1年 法学■2年	
ふりがな	イ チョン ミン	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	李 廷 珉	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	[到達目標] 経営戦略に関する基礎的な考え方を理解する。 [テーマ] 経営戦略論の基礎			
準備学習	特に予備知識は要求しない。ただし、事前に身近に存在する企業の行動の原理を考えてみる こと。また、テキストの関連部分を事前に読むことが望まれる。			
【授業概要】 経営学とは企業(広くとらえれば組織)の運営に関する学問である。企業経営は「戦略を立てる」「組織を作る」「人を動かす」という3つのマネジメント活動から成り立つ。本講義はそのうちの「戦略を立てる」という視点に立ち、経営戦略の基礎について考える。				
授業計画				
第1回 企業における3つのマネジメント活動				
第2回 企業と環境				
第3回 経営戦略の体系—成長戦略と競争戦略—				
第4回 成長戦略Ⅰ—関連型多角化—				
第5回 成長戦略Ⅱ—非関連型多角化—				
第6回 成長戦略Ⅲ—戦略ビジョン—				
第7回 成長戦略Ⅳ—事業間の資源配分のあり方—				
第8回 競争戦略Ⅰ—非競争の方法—				
第9回 競争戦略Ⅱ—事業の定義—				
第10回 競争戦略Ⅲ—競争のドメインと経営資源—				
第11回 競争戦略Ⅳ—コストリーダーシップ戦略—				
第12回 競争戦略Ⅴ—製品差別化戦略—				
第13回 競争戦略Ⅵ—市場創造戦略—				
第14回 競争戦略Ⅶ—市場の発展と競争戦略—				
第15回 まとめ				
第16回 期末試験				
テキスト	坂下昭宣(2007)『経営学への招待』白桃書房			
参考文献	講義の中で紹介する。			
評価の方法	期末試験を中心に、授業中に課す課題を加味して評価する。			
学生への メッセージ	本講義を通じて経営戦略に関する基礎的な考え方を理解できれば、たいへん望ましいことである。			

(半期・2単位)

科目名	小論文の書き方	科目分類	□第1グループ ■第2グループ	
			全学科	□必修 ■選択
英文表記		開講年次	経済学科 ■4年 法律学科・観光学科 ■2年	
ふりがな	はしもと しほ	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	橋元志保	修得単位	2単位	
授業の到達目標及びテーマ	[到達目標] 公務員試験(地方上級レベル)の論文試験に取り組むことのできる力を養成する。 [テーマ] 論理的文章を書くための基本を学ぶ。			
準備学習	課題として与えられたプリントは必ずやってくる。段階的に書く力を伸ばしていくので、一つ一つの課題をしっかりとクリアしていくことが大切です。			
【授業概要】				
<p>本講義では、小論文やレポートの基本的な書き方を学びます。大学生活において、論理的文章を「書く」という行為は欠かせないものです。定期試験における文章問題やレポート、そして卒業論文など、「テーマを決め、それに基づいて資料を集め、構成を考え、まとめていく」という作業を行うことは非常に多いのです。</p> <p>まず初めに、テーマの設定や資料の検索の仕方、構成の重要性、引用・要約の方法などを学んでいきます。また、自分が書いた文章を、表記や文体、構成などの観点から、より良い文章に推敲していくスキルも身につけていきましょう。段階的に書く力を伸ばしていきますが、時事問題の効果的な取り入れ方についても学び、最終的には公務員の論文試験をクリアできる力を養成することを目指していきます。</p>				
授業計画				
第1回 学術論文と試験論文について				
第2回 テーマと構成法、表現と文体について				
第3回 課題文型試験をクリアする方法①				
第4回 課題文型試験をクリアする方法②				
第5回 小論文を書いてみよう①－三段構成法とは－				
第6回 小論文を書いてみよう②－事実と意見－				
第7回 小論文を書いてみよう③－テーマの伝え方－				
第8回 推敲の方法				
第9回 公務員試験の論文対策①				
第10回 公務員試験の論文対策②				
第11回 時事問題の学び方①－格差社会について－				
第12回 時事問題の学び方②－グローバル化と国際化－				
第13回 時事問題の学び方③－社会貢献とNPO－				
第14回 時事問題の学び方④－環境問題について－				
第15回 後期試験				
第16回 授業のまとめ				
テキスト	資料を配布します。			
参考文献	授業時に紹介します。			
評価の方法	出席、授業態度、課題、試験の総合評価とします。			
学生へのメッセージ	公務員試験の論文対策を行います。志望者はぜひ受講してください。			

(半期・2単位)

科目名	日本の文学Ⅱ	科目分類	□第1グループ ■第2グループ	
			全学科	□必修 ■選択
英文表記	Japanese Literature	開講年次	□1年 □2年 □3年 ■4年	
ふりがな	はしもと しほ	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	橋元志保	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 近代～現代にかけての歴史、文学、文化について学び、考察できること。 〔テーマ〕 歴史と文学—人間の真実に触れよう—			
準備学習	授業で取り上げる小説や資料を、指定された頁まで必ず読んでおくこと。読み方や意味のわからない漢字等を調べておくこと。			
【授業概要】	<p>漱石の言葉を引用するまでもなく、日本の近代化は外発的に始まった。鎖国によって閉ざされていた日本が国際社会に向かって初めて開かれたとき、日本人たちが見出したものは西洋列強との圧倒的な国力の差であった。産業革命によって急速に発展し、アジア各地で植民地を建設する先進国の脅威を常に感じながら、日本の近代化は西洋の「三百年の活動を四十年で繰り返す」勢いで進められたのである。</p> <p>本講義では、国民国家の形成期にあたる近代から、現代にかけての様々な文学や言説を読み解き、日本及び日本人に関する考察を重ねていきたい。また、現代の日本文学が抱える諸問題、その受容の特色についても触れていきたいと考えている。</p>			
授業計画	第1回 明治維新と近代化—日本人というアイデンティティー—			
	第2回 国民国家の誕生—司馬遼太郎『明治という国家』を読む①—			
	第3回 国民国家の誕生—司馬遼太郎『明治という国家』を読む②—			
	第4回 日本の近代—司馬遼太郎『坂の上の雲』を読む①—			
	第5回 日本の近代—司馬遼太郎『坂の上の雲』を読む②—			
	第6回 日本の近代—司馬遼太郎『坂の上の雲』を読む③—			
	第7回 日本の近代—司馬遼太郎『坂の上の雲』を読む④—			
	第8回 日本の近代—司馬遼太郎『坂の上の雲』を読む⑤—			
	第9回 日本の近代—司馬遼太郎『坂の上の雲』を読む⑥—			
	第10回 国民国家の成立—日清・日露戦争と『坂の上の雲』—			
	第11回 外国文学の受容—若松賤子訳『小公子』を読む—			
	第12回 外国文学の受容—黒岩涙香訳『レ・ミゼラブル』を読む—			
	第13回 世界の中の日本文学—カズオ・イシグロと村上春樹—			
	第14回 世界の中の日本文学—村上春樹『海辺のカフカ』を読む—			
	第15回 後期試験			
	第16回 授業のまとめ			
テキスト	司馬遼太郎『坂の上の雲』第1巻 新装版（文芸春秋）			
参考文献	資料を配布します。			
評価の方法	出席、授業態度、課題、試験の総合評価とします。			
学生への メッセージ	ぜひ日本の近代を生きた人々の息吹を感じてください。 VTRもお見せしますので、お楽しみに！			

科目名	刑法総論	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			法律	□必修 ■選択
			観光	□必修 ■選択
英文表記	Criminal Law (general part)	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	あきやま えいいち	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	秋山 栄一	修得単位	4単位	
授業の到達目標 及びテーマ	犯罪論の基本的理解による体系的思考の構築			
準備学習	まず、指定されたテキストを一度は必ず一通り読む。それを踏まえ、次回の講義の単元を読んで講義に臨む。また、日々の刑事事件等の報道に関心を持ち、社会の出来事に目を向け、耳を傾けること。			
授業概要	犯罪と刑罰に関する法律である刑法は、私達の日常生活に密接にかかわっている。刑法は身近な存在でなければならない。市民に理解された行為規範として機能すべきである刑法は、その理論性、思想性を前提とした学説の対立の激しさの故に、敬遠されがちである。そこで、本講義では、基本用語の理解から刑法の機能や犯罪の理論的把握、刑罰の根拠などの基本的問題について理解しやすくするために、判例の動向や事例を活用して体系的に段階的に議論を進めていく。講義の進行方式としては、単元ごとにレジュメを配布し、その流れに従っていく予定である。なお、必ずしも指定のテキスト及び本シラバスの順序に従うとは限らないことがあることをお断りしておく。			
授業計画				
第1回 講義ガイダンス 刑法を学ぶ前提としての基本概念の理解	第17回 責任論の本質と構造			
第2回 刑法及び刑法学の概念 刑法の意義、規範、機能	第18回 責任能力			
第3回 刑法及び刑法理論 刑法思想・学説史	第19回 責任故意・過失と違法性の意識、錯誤			
第4回 刑法の基本主義 罪刑法定主義、責任主義等	第20回 期待可能性			
第5回 犯罪論の基礎と体系	第21回 修正された構成要件該当性① 未遂犯			
第6回 構成要件の意義と機能	第22回 修正された構成要件該当性② 未遂犯②			
第7回 基本的構成要件該当性① 実行行為	第23回 修正された構成要件該当性③ 共犯論の基礎、共同正犯			
第8回 基本的構成要件該当性② 因果関係	第24回 修正された構成要件該当性④ 教唆犯・従犯			
第9回 基本的構成要件該当性③ 構成要件の故意・過失、錯誤	第25回 修正された構成要件該当性⑤ 共犯をめぐる諸問題			
第10回 違法性の本質	第26回 小括			
第11回 違法性阻却事由① 正当防衛	第27回 罪数論			
第12回 違法性阻却事由② 緊急避難	第28回 刑罰論の本質			
第13回 違法性阻却事由③ 正当行為	第29回 刑の種類、刑の量定、執行			
第14回 違法性をめぐる諸問題	第30回 後半の総括			
第15回 前半の総括	第31回 試験②			
第16回 試験①	第32回 全体の総括			
テキスト	大塚仁『刑法入門』〔第4版〕有斐閣 2003			
参考文献	大塚仁『刑法概説第〔第4版〕』有斐閣 2008、西田典之・山口厚編『刑法判例百選 I 〔第6版〕』有斐閣、その他講義内で適宜紹介する。			
評価の方法	試験70%、出席等の授業態度30%の割合で、厳正に評価する。			
学生への メッセージ	指定テキスト・最新の六法・ノート・毎回配布するレジュメを必携のこと、また積極的な講義参加を望む。			

科目名	刑事政策	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			法律	□必修 ■選択
英文表記	Criminology	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	ちゅうじょう しんいちろう	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	中條 晋一郎	修得単位	4単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕 犯罪の原因と対策についての諸理論と実践を学び、理解する。 〔テーマ〕 刑事政策の理論と実践を学ぶ			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回学習した箇所について、教科書・ノート・配布資料を用いて復習しておくこと。 ・ 次回学習する箇所について、教科書を読んで予習しておくこと。 			
授業概要	<p>刑罰法令を定めるだけでは、犯罪対策として十分ではない。逮捕、刑事裁判手続き、そして刑の執行という一連の刑事司法手続きが、法律や規則に基づき適切に行われなければ、犯罪をなくすことはできない。そして、そのプロセスの根底には、再犯を防ぎ、犯罪者の社会復帰を支援するという社会復帰理念がある。この講義では、刑事政策の理念と実践を、歴史や犯罪現象の分析などを交えながら解説する。</p>			
授業計画				
第1回	この講義についてのガイダンス／ 刑事政策とは何か	第17回	刑事司法・少年司法機関	
第2回	刑事政策の歴史(1) ～近代刑事政策の誕生～	第18回	刑罰(1) ～生命刑～	
第3回	刑事政策の歴史(2) ～現代の刑事政策理論の動向～	第19回	刑罰(2) ～自由刑～	
第4回	犯罪の原因論(1)	第20回	刑罰(3) ～財産刑～／ 保安処分	
第5回	犯罪の原因論(2)	第21回	犯罪者処遇の意義	
第6回	わが国の犯罪情勢～犯罪統計から～	第22回	監獄法改正と犯罪者処遇の新展開	
第7回	各種犯罪の動向(1) ～交通犯罪～	第23回	施設内処遇	
第8回	各種犯罪の動向(2) ～薬物犯罪～	第24回	社会内処遇	
第9回	各種犯罪の動向(3) ～組織犯罪～	第25回	少年保護手続き(1)	
第10回	各種犯罪の動向(4) ～高齢者犯罪～	第26回	少年保護手続き(2)	
第11回	各種犯罪の動向(5) ～外国人犯罪～	第27回	少年保護手続き(3)	
第12回	各種犯罪の動向(6) ～企業犯罪～	第28回	犯罪被害者の支援と法的地位	
第13回	各種犯罪の動向(7) ～性犯罪～	第29回	刑事司法の国際化と犯罪対策	
第14回	各種犯罪の動向(8) ～家庭内・近親者間犯罪～	第30回	期末試験	
第15回	少年非行の現状	第31回	講義のまとめ	
第16回	刑事制裁総説 ～刑罰・処分～	第32回		
テキスト	守山正・安部哲夫(編著)『ビギナーズ刑事政策』(成文堂・2008年)			
参考文献	矢島正見他(編著)『改訂版よくわかる犯罪社会学入門』(学陽書房・2009年)			
評価の方法	期末試験の点数と講義内で実施する小テストの点数との合計点で、評価をする。			
学生へのメッセージ	教科書を必ず購入し、毎回の講義には六法全書とあわせて持参すること。また、講義中の私語は、真剣に講義に臨む者を妨害する行為であるから、断固許さない。			

科目名	債権各論（さまざまな契約）	科目分類	■第1グループ□第2グループ	
			法律学科	□必修 ■選択
英文表記	LawofObligation(Particular)	開講年次	□1年□2年 ■3年 □4年	
ふりがな	メン カンソブ	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	孟 観燮	修得単位	4単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕さまざまな契約を学ぶと、社会の仕組みがより深く理解できます。 〔テーマ〕契約と法定債権（事務管理、不当利得、不法行為）			
準備学習	授業前に、テキストに目を通しておくこと			
授業概要	債権各論は、契約、事務管理、不当利得、不法行為に分かれています。実際の事例も見ながら、債権発生原因について一緒に考えることを目指します。			
授業計画				
第1回 契約の基礎1	第17回 贈与			
第2回 契約の基礎2	第18回 消費貸借、使用貸借			
第3回 契約の基礎3	第19回 賃貸借1			
第4回 契約の成立	第20回 賃貸借2			
第5回 契約の効力1	第21回 賃貸借3			
第6回 契約の効力2	第22回 請負			
第7回 契約の効力3	第23回 委任、寄託、組合、和解			
第8回 契約の解除1	第24回 事務管理1			
第9回 契約の解除2	第25回 事務管理2			
第10回 契約の解除3	第26回 不当利得1			
第11回 売買1	第27回 不当利得2			
第12回 売買2	第28回 不法行為1			
第13回 売買3	第29回 不法行為2			
第14回 売買4	第30回 不法行為3			
第15回 前期のまとめ	第31回 後期のまとめ			
第16回 試験	第32回 試験			
テキスト	潮見佳男「債権各論Ⅰ」（新世社）			
参考文献				
評価の方法	試験（中間・期末試験—総点80点）と出席状況（20点）			
学生へのメッセージ	日常生活の中での契約について考えてみましょう。			

科目名	生活と政治Ⅱ	科目分類	□第1グループ ■第2グループ	
			法学部	□必修 ■選択
			経済学部	□必修 ■選択
英文表記	Political Science II	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	しかたに ゆういち	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	鹿谷 雄一	修得単位	2 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 政治のしくみと変化について理解し説明できる 〔テーマ〕 国内外の政治行政の変化を理解する			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・政治や社会に関する新聞記事やニュースに関心を払うこと ・テキストをあらかじめ読んでおくこと 			
【授業概要】 政治学の入門講義です。国内外の政治のしくみや政治行政に関する諸問題について説明するとともに、政治が存在する単位について理解を深めていきます。各種試験対策にも役立つよう工夫します。				
授業計画				
第1回 イン트로ダクション				
第2回 民主主義とは何か				
第3回 権力のコントロール				
第4回 政治のしくみ：国会				
第5回 政治のしくみ：内閣				
第6回 政治のしくみ：諸外国との比較				
第7回 官僚という職業				
第8回 官僚の役割				
第9回 政策の形成①				
第10回 政策の形成②				
第11回 地方自治				
第12回 地方分権改革				
第13回 政治改革と行政改革				
第14回 国の枠を超える政治				
第15回 世界政治の潮流				
第16回 期末試験				
テキスト	伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め』（有斐閣）			
参考文献	北山・久米・真淵『はじめてで出会う政治学』（有斐閣） その他、適宜紹介します			
評価の方法	試験、小課題、出席、講義への貢献度を総合的に評価			
学生への メッセージ	新聞やニュースなどから社会が抱えている問題について 広く関心を払うよう努めてください。			

科目名	行政学Ⅱ	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			法律学科	□必修 ■選択
			観光学科	□必修 ■選択
英文表記	Public Administration II	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	しかたに ゆういち	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	鹿谷 雄一	修得単位	2 単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕 行政改革と地方制度改革の背景を理解し説明できる 〔テーマ〕 行政改革の動向から地方行政を理解する			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事の政治面や地域面のニュースに関心を払うこと ・テキストをあらかじめ読んでくること 			
【授業概要】 行政が直面している問題やその解決方策の動向・事例をとおして、行政の変化について理解を深めるとともに、地方自治体の先進的取り組みから行政改革の方向性・あり方を探っていきます。また、公務員試験（行政職）の対策にも役立つ内容にします。				
授業計画				
第1回 イントロダクション：行政改革と自治体行政				
第2回 行政改革：NPM 理論				
第3回 行政改革：民営化・民間委託				
第4回 行政改革：文書管理・情報管理				
第5回 行政改革：地方分権改革				
第6回 地方自治：基本的なしくみ				
第7回 地方自治：自治体の組織				
第8回 地方自治：戦前と戦後の相違				
第9回 住民：さまざまな権利				
第10回 住民：参加の拡充				
第11回 住民：行政との協働				
第12回 自治の規模：広域行政と狭域行政				
第13回 自治の規模：市町村合併				
第14回 自治の規模：大都市制度				
第15回 期末試験				
第16回 講義のまとめ（試験の解説講義を含む）				
テキスト	佐藤竺監修『市民のための地方自治入門』（実務教育）			
参考文献	土岐寛ら『現代日本の地方自治』（北樹出版） 西尾勝『行政学（新版）』（有斐閣） 今村都南雄ら編『ホーンブック基礎行政学』（北樹出版）			
評価の方法	試験、小課題、出席、講義への貢献度を総合的に評価			
学生へのメッセージ	地元の自治体がどのような取り組みをしているのか調べ、先進自治体と比較するよう努めましょう。			

科目名	政治史Ⅱ	科目分類	□第1グループ ■第2グループ
			法学部 □必修 ■選択 □必修 □選択
英文表記	Modern Political History of Japan II	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年
ふりがな	しかたに ゆういち	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	鹿谷 雄一	修得単位	2 単位
授業の到達目標及びテーマ	[到達目標] 日本政治の歴史を理解し説明できる [テーマ] テーマ別歴史的転換点を探る		
準備学習	・各テーマについて現在の状況を常に意識すること		
【授業概要】			
明治期以降の日本政治について、歴史的比較の視点をもってテーマ別に概説することで、今日の日本政治に対する理解を深めていきます。政治の転換点や重要事項、制度などを中心に学んでいきます。			
授業計画			
第1回 イン트로ダクション			
第2回 通史			
第3回 政治制度史			
第4回 内閣史①			
第5回 内閣史②			
第6回 政党史①			
第7回 政党史②			
第8回 選挙史			
第9回 官僚制史			
第10回 外交史①			
第11回 外交史②			
第12回 戦争史			
第13回 自治史①			
第14回 自治史②			
第15回 秋田県政史			
第16回 期末試験			
テキスト	北岡伸一『日本政治史—外交と権力』（有斐閣）		
参考文献	シリーズ日本近現代史（岩波新書）		
評価の方法	試験、小課題、出席、講義への貢献度を総合的に評価		
学生へのメッセージ	過去から現在を知ることで、過ちを繰り返さないことについて一緒に学びましょう。		

(半期・2単位)

科目名	地理学の基礎Ⅱ	科目分類	□第1グループ ■第2グループ	
			法学部	□必修 ■選択
			経済学部	□必修 ■選択
英文表記	Geography Ⅱ	開講年次	法学部	■3年
			経済学部	■2年
ふりがな	ごとう ただし	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	後藤 忠志	修得単位	2単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕日本と世界の地誌について基本事項を理解する。 〔テーマ〕日本の地誌と世界の地誌、			
準備学習	・可能であれば、高校か中学校の地理の教科書や地図帳を使って、毎回の関連項目に目を通しておくと学習しやすいでしょう。また、新聞やTVなどで最新の日本情勢、世界情勢を把握しておくことより理解が深まるでしょう			
【授業概要】本授業では系統地理と並ぶ、地理学の二大分野の内の一つ、日本と外国の地誌について学びます。				
授業計画				
第1回 日本の国土と自然1				
第2回 日本の国土と自然2				
第3回 北海道				
第4回 東北				
第5回 関東				
第6回 東海				
第7回 北陸・甲信越				
第8回 近畿				
第9回 中国・四国				
第10回 九州・沖縄				
第11回 ロシア・中国				
第12回 韓国・他アジア・オセアニア				
第13回 ヨーロッパ				
第14回 アメリカ				
第15回 外題の国家と民族問題				
第16回 試験				
テキスト	二宮書店『詳解現代地図 2013－2014』、1600円			
参考文献	授業中に紹介します。			
評価の方法	総合評価(出欠、受講態度、提出物、試験等)			
学生へのメッセージ	地理学の基礎Ⅰ、Ⅱはできるだけ通年履修することを望みます。			

(半期・2単位)

科目名	日本の歴史Ⅱ	科目分類	□第1グループ ■第2グループ	
			観光学科	□必修 ■選択
英文表記	Japanese history	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	はなだ ふじお	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	花田 富二夫	修得単位	2 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕中世から近世にかけての日本の歴史を理解する 〔テーマ〕中世・近世の歴史を日本および外国との関係を注視しつつ学習する			
準備学習	日本の中世、近世とはどのような時代背景にあるか前もって理解しておくこと			
【授業概要】武士の政権を中心において中世から近世への足跡をたどる				
授業計画				
第1回 北条氏の台頭と蒙古襲来				
第2回 室町幕府と応仁の乱				
第3回 下剋上と戦国大名				
第4回 室町文化—北山・東山文化				
第5回 ヨーロッパ人の東アジア進出				
第6回 天正遣欧使節—キリスト教の伝来				
第7回 織田信長の統一事業				
第8回 豊臣秀吉の統一事業				
第9回 豊臣秀吉の検知・刀狩り				
第10回 豊臣秀吉の対外政策—文禄・慶長の役①				
第11回 豊臣秀吉の対外政策—文禄・慶長の役②				
第12回 桃山文化—歌舞伎・人形浄瑠璃				
第13回 関ヶ原の戦いと江戸幕府の成立				
第14回 幕藩体制の成立と諸制度				
第15回 鎖国制度と島原の乱				
第16回 試験				
テキスト	特になし、プリントを用意する			
参考文献	日本中世・近世史に関する歴史書物			
評価の方法	試験ならびに毎時間のペーパーによる			
学生への メッセージ	毎時間、出欠確認を兼ねてペーパーに回答してもらいます。 遅刻・途中退出は欠課となるので留意してください			

科目名	観光行政法	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			法律	□必修 ■選択
			観光	□必修 ■選択
英文表記	Tourist Administrative Law	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	わたべ たかあき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	渡部高明	修得単位	4単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕観光における行政と法の役割を理解することを目標とする 〔テーマ〕行政を背景とした市民の立場から観光振興をテーマとして考えます			
準備学習	新聞を読み、観光に関する取り組み記事を注意しておいてください。			
【授業概要】 この講座では、観光と行政(法)のかかわりを学ぶとともに、業界や市民が地域の観光振興をどのように形成していけるかを考えます				
授業計画				
第1回	ガイダンス 観光と行政のかかわり1(観光とは)			
第2回	観光と行政のかかわり2(行政とは)			
第3回	観光政策と観光行政1(歴史的推移)			
第4回	観光政策と観光行政2(理念と特殊性)			
第5回	観光政策と観光行政3(観光に関する組織)			
第6回	観光基本法と観光立国推進基本法の制定の背景			
第7回	観光立国推進基本法の概要			
第8回	観光庁、観光立国推進基本計画			
第9回	観光圏整備法			
第10回	国際観光の振興			
第11回	「観光まちづくり」について			
第12回	住民参加による観光振興2(全国の事例)			
第13回	住民参加による観光振興3(東北の事例)			
第14回	住民参加による観光振興4(秋田の事例)			
第15回	期末試験			
第16回	まとめ			
テキスト	『自治体の観光政策と地域活性化』中尾清 イマジン出版			
参考文献	授業中に随時紹介する			
評価の方法	期末試験、レポート、出席および授業の状況			
学生への メッセージ	観光行政の視点から振興策を考えましょう			

科目名	観光と民俗	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			後期	□必修 ■選択
英文表記	Tourism and Folklore	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	かまだゆきお はなだふじお	修得単位	2 単位	
担当者名	鎌田 幸男 花田富二夫			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 芸能の根底に流れている思想。生活文化の根底にある生活観 〔テーマ〕 それぞれの芸能が継承されてきた背景を考える。			
準備学習	新聞で芸能や民俗文化に関する記事を読み、どのようなものがあるかメモしておく。			
【授業概要】 観光は、現代社会の大きな潮流となっている。その対象は、自然、景色、旧所・名跡、博物館などから伝統的な文化に関心が向いてきている。本講義では、暮らしの中の芸能や生活文化、それに伝統芸能としての番楽・能楽、浄瑠璃、歌舞伎をはじめとする古典演劇などに視点をおいて、秋田県や日本の観光資源を視野に入れながら考察を深める。				
授業計画				
第1回 観光とは、その考え方				
第2回 生活文化とは、民俗学と民族学				
第3回 年中行事とは、村祭りの意義				
第4回 竿燈行事と人々				
第5回 盆踊りとは、西馬音内				
第6回 梵天行事の意義				
第7回 ナマハゲ行事の意義				
第8回 カマクラ、犬っこ、綱引きと人々				
第9回 祭りと信仰—祇園祭り				
第10回 人形を使った芸能—人形浄瑠璃、糸操り、指操りの世界				
第11回 仮面劇としての芸能—番楽・能楽の世界				
第12回 風流から歌舞伎へ—歌舞伎と踊りの世界				
第13回 狂言の世界—大蔵流狂言師の世界、壬生狂言				
第14回 観光と民俗（3）				
第15回 観光と民俗（4）				
第16回 試験				
テキスト	講義のときにプリントを配布。			
参考文献	講義のときに紹介する。			
評価の方法	定期試験(70点)、レポート(15点)、出席(10点)、授業態度(5点)の総合評価。			
学生への メッセージ	さまざまな芸能を見学して欲しい。			

科目名	文化人類学	科目分類	□第1グループ ■第2グループ	
			前期	□必修 ■選択
英文表記	Cultural Anthropology	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	かまだ ゆきお	修得単位	2 単位	
担当者名	鎌田 幸男			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕世界の諸民族の暮らしや文化を比較研究する。 〔テーマ〕文化人類学とは、どのような学問か。			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞、テレビ、本などを通じて世界の民族の生活に関心を持ち、ノートにメモをする。 ・「文化人類学入門」（中公新書）を読んでおく。 			
<p>【授業概要】文化人類学は、人類学の領域の学問である。そして世界の様々な民族がもつ文化や社会について比較研究する学問である。研究の方法は、フィールドワークにより具体的、実証的にとらえた研究をするところに特色がある。そこから民族の歴史や文化の伝播、民族がもつ伝統文化を知ることができる。本講義では、世界の諸民族の暮らしぶりー民族学の成果を基盤に異文化社会の生活様式を取り上げる。そして社会人類学にもふれながら人間とその文化のもつ本質について考える。</p>				
授業計画				
第1回 文化人類学の世界ーどのような学問だろうか				
第2回 文化人類学の区分ーアメリカ、イギリス、ドイツ、そして日本の区分について				
第3回 フィールドワークの大切さーマリノフスキーの調査から				
第4回 日本の文化人類学の歩みー研究の歴史を考える				
第5回 二つの「みんぞく」学ー民俗学と民族学を知る				
第6回 柳田国男と折口信夫と渋沢敬三の民俗学について				
第7回 異文化理解のための多様な社会を考える				
第8回 狩猟・採集民と牧畜民の社会を考える				
第9回 農耕社会と都市社会を考える				
第10回 経済活動ークラ・交易を考える				
第11回 宗教観ーアニミズム、シャーマニズムについて				
第12回 日本のシャーマニズムについて				
第13回 諸民族の代表的な年中行事（1）				
第14回 諸民族の代表的な年中行事（2）				
第15回 まとめーふたたび文化人類学とは				
第16回 定期試験				
テキスト	講義のときにプリントを配布。			
参考文献	文化人類学入門（中公新書）、文化人類学を学ぶ人のために（世界思想社）			
評価の方法	定期試験（70点）、レポート（15点）、出席（10点）、授業態度（5点）を総合評価。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の特に未開民族の生活様式と文化に目を向けてほしい。 			

科目名	食と文化	科目分類	■第1グループ □第2グループ
英文表記	Food and Culture	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	かまだゆきお	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	鎌田幸男	修得単位	2 単位
授業の到達目標及びテーマ	<p>〔到達目標〕日本の食文化、食生活を知る 〔テーマ〕人々は何を食べて、どのような食事観をもってきたか。風土(環境)と文化と食との関わりを知る。</p>		
準備学習	<p>新聞の食に関する記事に目を通す。特に行事食や地域の特色ある食材(郷土食)に気をつけてノートに書く。「食の課外授業」(平凡社新書)を読んでおく。</p>		
授業概要	<p>人々が生きるためには、食べ物の摂取は不可欠な要素です。自然物採集に始まり、耕作そして調理・加工・保存へと変遷してきた。その間に食べ物—食材は多様化し、調理は食生活になくてはならないものとなった。しかも近代の生活史では、台所の役割も考えなくてはならない。こうして食生活は、混合しながら進展してきたのである。食はまさしく食文化の歴史なのである。 本講義では、食べ物は食文化の歴史という観点から、人々はどうのように食べ物に関わりをもってきたかを考える。</p>		
授業計画			
第1回 食文化について—稲作から現代まで			
第2回 多様な食文化—世界の主食類型の分布から			
第3回 食生活史—古代の発酵食品と乳製品			
第4回 うどん文化とそば文化			
第5回 食生活の東と西—汁と吸い物			
第6回 日本の食文化と朝鮮半島の食文化			
第7回 日本の食文化の特色—大饗料理(1)			
第8回 精進料理—禁忌、野菜(2)			
第9回 本膳料理—膳の形式、特質(3)			
第10回 懐石料理—由来、茶の湯、作法(4)			
第11回 生活と食事—日常食、行事食、郷土料理			
第12回 秋田県北部地域の特徴的な料理			
第13回 秋田県南部地域の特徴的な料理			
第14回 インスタント食品のこと			
第15回 嗜好品—茶、コーヒー、炭酸類			
第16回 定期試験			
テキスト	必要に応じて授業時にプリントを配布する。		
参考文献	食の文化史(中公新書) 食事の文明論(中公新書)		
評価の方法	定期試験(70点)、レポート(15点)、出席状況(5点)、受講態度など(10点)		
学生へのメッセージ	日本の食文化の変遷、郷土の代表的な食文化を知る。		

科目名	秋田県の歴史と文化	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			前期	□必修 ■選択
英文表記	History and Culture in Akita Prefecture	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	かまだ ゆきお	修得単位	2 単位	
担当者名	鎌田 幸男			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕秋田県の歴史と文化の概要を知り、主要な資源と物産を考える。 〔テーマ〕郷土の歴史や文化、文化財に関心をもつ。			
準備学習	新聞などを通じて郷土の歴史や文化、文化財に目を通す。興味のあるところは、ノートに書いておく。			
【授業概要】秋田県の歴史の全体像に触れるが、とくに江戸時代以降の歴史と人物と文化に視点をあてて考える。また秋田県は、地理的環境から全国有数の穀倉地帯であり、更に天然の秋田杉を産出してきた。また秋田を訪ねた文人や紀行家、秋田の偉人にも目をむける。こうした風土の上に伝統ある文化を築いてきたが、本講義を通じて秋田県の歴史や文化の概要を把握し、あわせて郷土の歴史や文化にも興味と関心を持ち愛着心を養いたい。				
授業計画				
第1回 秋田県の夜明け—地理的環境を知る				
第2回 秋田城・出羽郡、出羽柵を考える				
第3回 安東氏とその時代—秋田定着、日本海の海運				
第4回 佐竹氏と秋田藩—佐竹義宣、久保田城				
第5回 出羽と平泉文化—清原氏と後三年の役				
第6回 財政源—秋田杉				
第7回 鉱山の隆盛と民衆—院内、阿仁、木炭と釜子				
第8回 土崎港の賑わい—雄物川を下る秋田の米、能代港				
第9回 近代秋田のはじまり—戊辰戦争と明治初年の秋田				
第10回 秋田の文化財				
第11回 男鹿半島—農民の暮らしと食卓				
第12回 戦後の秋田—変わり行く八郎潟干拓				
第13回 佐藤信淵と平田篤胤				
第14回 老農・石川理紀之助				
第15回 菅江真澄の足跡				
第16回 定期試験				
テキスト	講義のときプリントを配布			
参考文献	秋田県の歴史と風土（創土社）、風土と文化（秋田県書店組合）			
評価の方法	定期試験（70点）、レポート（15点）、出席（10点）、受講態度（5点）の総合評価			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の雪国民俗館、県立博物館、赤れんが館などを見学して見聞を広げてほしい。 ・先祖の築いた文化財に関心を持ち、調べてほしい。 			

科目名	観光法規	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			観光	■必修 □選択
			法律	□必修 ■選択
英文表記	Tourism Law	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	みちはた ただよし	修得単位	2 単位	
担当者名	道端 忠孝			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕観光法令に基づくまちづくりのあり方の理解 〔テーマ〕観光振興と観光法令の関係の明確化			
準備学習	基本的には、プリントを配付してすすめていきますので、よく整理し、復習をしっかりとっておいてください。			
【授業概要】今、観光立国推進基本法を基本法として種々の法令が定められています。そこで、本稿では、観光法令の体系や分類を明らかにし、観光振興と観光法令の関係を明確にしたうえで、観光事業法令や、観光開発法令（リゾート法など）のほか、景観法、文化財保護法、グリーンツーリズム法、エコツーリズム法、観光圏整備法などを取り上げることにしたい。				
授業計画				
第1回 ガイダンス；県内各地の観光まちづくりの現状などを紹介				
第2回 観光、観光立国、観光立県、観光立町				
第3回 観光と法律・行政				
第4回 観光法の意義・体系				
第5回 観光立国推進基本法と旧観光基本法				
第6回 観光立国推進基本法の概要				
第7回 リゾート法の概要				
第8回 リゾート法の諸問題				
第9回 景観法				
第10回 文化財保護法と景観整備・歴史まちづくり法				
第11回 グリーンツーリズム法				
第12回 エコツーリズム法				
第13回 観光圏整備法				
第14回 観光私法①旅行会社と客の法律関係				
第15回 観光私法②ホテル・旅館と客の法律関係				
第16回 試験				
テキスト	開講時に指示する。			
参考文献	開講時に指示する。			
評価の方法	試験と出席状況・受講態度等で総合評価します。			
学生への メッセージ	自分の生まれた市町村は今後どのようにすれば、より良い観光地になっていくか、考えながら受講しましょう。			

科目名	世界のホテル日本のホテル	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			観光	□必修 ■選択
英文表記	What is Hotel / Overseas & Japan	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	むかいやち ひろのぶ	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	向谷地 博信	修得単位	2単位	
授業の到達目標及びテーマ	秋田の身近なホテルはホテルの一形態に過ぎない。海外と日本の一流のホテルに例をとり、ホテルとは何なのか、上手な使い方も含めホテルの世界を楽しく学ぶ。			
準備学習	事前配布TEXTと関連する新聞記事を授業の前に目を通しておくこと。授業では各自最低1つの質問を課する			
【授業概要】				
ホテルに関わる最新の豊富な情報を資料とビデオによりホテルの世界の全体像を包括的に理解する。授業の中でビデオで見たホテルの特徴を即時に掴みまとめることにより、表現する力を涵養する。				
第1回 オリエンテーション				
第2回 やさしいホテルの歴史				
第3回 ホテルと旅館の違いを考えてみよう				
第4回 やさしいホテルの上手な使い方				
第5回 世界のホテル1 リゾートホテル				
第6回 世界のホテル2 リゾートホテル				
第7回 世界のホテル3 クラシックホテル				
第8回 世界のホテル4 クラシックホテル				
第9回 世界のホテル5 シティホテル				
第10回 世界のホテル6 シティホテル				
第11回 日本のホテル1 外資系ホテル				
第12回 日本のホテル2 外資系ホテル				
第13回 日本のホテル3 日系ホテル				
第14回 日本のホテル4 日系ホテル				
第15回 まとめとキャリアデザイン				
第16回 試験				
テキスト	パワーポイント、ビデオと資料			
参考文献	授業の中で紹介します			
評価の方法	出席数、試験、受講姿勢の総合評価			
学生へのメッセージ	ホテル事業は21世紀の日本の成長分野です。最新の豊富な事例に基づきホテルの楽しさを紹介します。			

科目名	観光人類学	科目分類	■第1グループ □第2グループ
			観光 □必修 ■選択
英文表記	Tourism Anthropology	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	いのうえ ひろし	修得単位	2単位
担当者名	井上 寛		
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕「観光」の切り口からしゃかい文化をみることができる 〔テーマ〕観光と文化		
準備学習	インターネットや旅行のパンフレットをたくさん見て、観光と文化に親しんでください。		
【授業概要】 観光において「文化」は重要なテーマのひとつです。なぜなら、文化は人類がつくりあげたものですし、それを「みる」行為である「観光」も人類がつくりあげた「文化」です。この時間は、世界遺産や秋田の文化を「観光」の切り口からみる力をつけることを目標にします。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 観光・文化・擬似イベント			
第3回 ペットツーリズムの時代			
第4回 自分探しの旅—おもひでぼろぼろから考える観光人類学			
第5回 中国の観光を作り出すしかけ			
第6回 ディズニーランドと巡礼			
第7回 オーロラ・サンタクロース・サーミ人			
第8回 観光商品と文化—ベトナムはおもしろい			
第9回 情報資本主義と近代観光			
第10回 バックパッカーツーリズムと消費文化			
第11回 大河ドラマと観光			
第12回 アニメツーリズムと観光まちづくり			
第13回 ヘリテージツーリズムの光と影			
第14回 ユニバーサルツーリズムの観光人類学			
第15回 まとめ・復習			
第16回 定期試験			
テキスト	毎時間、講義ノート・資料を配布		
参考文献	山下晋司著『観光文化学』新曜社 2007年 (2,100円)		
評価の方法	定期試験と出席状況等により総合的に評価		
学生への メッセージ	世界遺産、テーマパーク、アニメなど、これらは「観光と文化」に関係する内容です。楽しいテーマで興味を持って学びましょう。		